

ペースメーカー新規植え込み手術説明書

1. 病名、病状

洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動、その他（ ）
放置しておくとう失神発作が出現し、全身の循環不全により致死になりうる病気です。

2. 手術名とその内容（手術予定日 平成 年 月 日）

ペースメーカー新規植え込み術。

静脈穿刺により左もしくは右の鎖骨下よりリードを挿入し、前胸部皮下にペースメーカーを移植します。

3. 麻酔の方法・内容（全身麻酔・腰椎麻酔・硬膜外麻酔・局所麻酔・その他）

局所麻酔

4. 手術の必要性と、手術をしないときの経過予想

致命的になる不整脈があるためペースメーカー治療が必要です。
本治療をされない場合には予後を悪化させる可能性があります。

5. 他の治療方法との比較、その利点と危険性

薬物療法：手術を要しませんが、効果が不正確となります。

6. 手術自体の危険性及び考えられる合併症

気胸、血胸、皮下気腫、出血、感染症、リードの位置移動等
合併症の程度により再手術、輸血、外科的手術が必要となる場合があります。

7. 予後（経過予想）及び考えられる後遺症

通常5-6年毎にペースメーカー本体（電池）の交換手術が必要です。
長期的には、リードの断線による再手術が必要なことがあります。

8. 通常は発生しないが起こり得る重大な危険性

リードによる血管・心穿孔

9. その他

医療機器の適正使用のため医療機器関係の業者が手術に立ち合う場合があります。